

2026年度

慶應義塾大学入学試験問題

看護医療学部

小論文

- 注意
1. 受験番号と氏名を解答用紙の所定の欄にそれぞれ記入してください。
 2. 解答用紙は2枚です。解答は、必ず解答用紙の指定の欄によき書きで記入してください。解答欄外の余白、採点欄および裏面には一切記入してはいけません。
 3. この冊子の総ページ数は8ページです。問題文は3～6ページに書かれています。2ページ、7ページは下書き用紙です。試験開始直後、総ページ数および落丁などを確認し、不備がある場合はすぐに手を挙げて監督者に知らせてください。
 4. 不明瞭な文字・まぎらわしい数字は採点の対象としないので、注意してください。
 5. 問題冊子は試験終了後必ず持ち帰ってください。

《 指示があるまで開かないこと 》

下書き用紙

これは、問題 1 の下書き用紙です。解答は解答用紙に記入してください。

次の文章は、外山滋比古著『思考の整理学』からの抜粋です。文章を読んで以下の設問にこたえなさい。

問題 1. 著者が考えている「朝飯前」とは何かを100字以内で要約してください。

問題 2. 下線について、著者の考えを述べた上で、あなたにとっての「最高の時間」を根拠とともに500字以内で述べてください。

人間はいつからこんなに夜行性をつよめたのであろうか。もちろん昼間働くのが常態であるが、こと、知的活動になると、夜ときめてしまう。灯下親しむの候、などということばは電灯などのない昔から、読書は夜するものという考えがあったことを示している。

そして、いつのまにか、夜の信仰とも言うべきものをつくりあげてしまった。現代の若ものも当然のように宵っ張りの朝寝坊になって、勉強は夜でなくてはできないものと、思いこんでいる。朝早く起きるなど言えば、老人くさい、と笑われる始末である。

夜考えることと、朝考えることとは、同じ人間でも、かなり違っているのではないか、ということを何年か前に気づいた。朝の考えは夜の考えとはなぜ同じではないのか。考えてみると、おもしろい問題である。

夜、寝る前に書いた手紙を、朝、目をさましてから、読み返してみると、どうしてこんなことを書いてしまったのか、とわれながら不思議である。

外国で出た手紙の心得を書いた本に、感情的になって書いた手紙は、かならず、一晩そのままにしておいて、翌日、読みかえしてから投函せよ。一晩たってみると、そのまま出すのがためられることがすくなくない。そういう注意があった。現実的な知恵である。

それに、どうも朝の頭の方が、夜の頭よりも、優秀であるらしい。夜、さんざんてこずって、うまく行かなかった仕事があるとする。これはダメ。明日の朝にしよう、と思う。心のどこかで、「きょうできることをあすに延ばすな」ということわざが頭をかすめる。それをおさえて寝てしまう。

朝になって、もう一度、挑んでみる。すると、どうだ。ゆうべはあんなに手におえなかった問題が、するすると片づいてしまうではないか。昨夜のことがまるで夢のようである。

はじめのうちは、そういうことがあっても、偶然だと思っていた。夜の信者だからであろう。やがて、これはおかしいと考えるようになった。偶然にしては同じことがあまりにも多すぎる。おそまきながら、朝と夜とでは、同じ人間でありながら、人が違うことを思い知らされたというわけである。

“朝飯前”ということばがある。手もとの辞書をひくと、「朝の食事をする前。『そんな事は朝飯前だ』〔＝朝食前にも出来るほど、簡単だ〕」（『新明解国語辞典』）とある。いまの用法はこの通りだろうが、もとはすこし違っていたのではないかと疑い出した。

簡単なことだから、朝飯前なのではなく、朝の食事の前にするために、本来は、決して簡単でもなんでもないことが、さっさとできてしまい、いかにも簡単そうに見える。知らない人間が、それを朝飯前と呼んだというのではあるまいか。どんなことでも、朝飯前にすれば、さっさと片付く。朝の頭はそれだけ能率がいい。

おもしろいことに、朝の頭は楽天的であるらしい。前の晩に仕上げた文章があつて、とてもこれではいけない。明日になってもう一度、書き直しをしよう、などと思って寝る。一夜明けて、さっぱりした頭で読み返してみると、まんざらでもないという気がしてくる。これでよいことにしようと考えなおす。

感情的になって書いた手紙は、朝の頭で再考すると、落第するけれども、すべてを拒むわけではない。いいところがあれば、素直に認める大らかさもある。

そういうことが何度もあつて、それまでの夜型の生活を朝型に切りかえることにした。四十歳くらいのときである。まだ、それほど年ではないが、老人がたいてい、いつのまにか朝型になっている。あんな夜型だったのと思う人までが、朝のうちでないと仕事ができないと言うのをきいたこともある。

朝の仕事が自然なのである。朝飯前の仕事こそ、本道に行くもので、夜、灯をつけてする仕事は自然にさからっているのだ。

若いうちこそ、粋がって、その無理をあえてする。また、それだけの体力もある。ところが年をとってくると、無理がきかなくなり、自然に帰る。朝早く目がさめて困るというようになる。

それで、まだそれほど年でもないうちに、老人を見倣おうと思って、夜していた仕事を朝へまわすことにした。と言って、そんなに早起きのできるわけがない。

ゆっくり起きるから、朝飯前の仕事などなかなか望むべくもない。これは何とかしなくてはならないと考えた。

英雄的早起きはできないが、朝のうちに、できることなら、朝飯前になるべくたくさんのことをしてしまいたい。それにはどうしたらいいのか。答は簡単である。

朝食を抜けばいい。

八時におきて、八時半に食事をしていたのでは、朝飯前の仕事など絵にかいた餅。朝食をしなければ、八時におきて、すぐ、仕事を始められる。朝食抜きというのは当らない。ひるまでおくらせる。朝食と昼食とを同時にとると言った方がおだやかである。これが決して異常なことでないのはブランチ (brunch 昼食兼用のおそい朝食。breakfast+lunch) ということばがあるのでもわかる。

こうすれば、ひるまではすべて朝飯前の時間、そこですることはすべて、朝飯前ということになって、はなはだ都合がよろしい。

だいたい、胃袋に何か入れたあとすぐ、頭を使うのはよくない。消化のために血液がとられて、頭はぼーっとする。それが当たり前で、学校の生徒が、午後の授業で睡魔^{すいま}に襲われるのは健康な証拠である。ああいう時間に勉強させようというのがそもそも間違っている。

猛獣の訓練をするのは、空腹のときに限るのだそうだ。腹がふくれたら、どんなことをしても動くものではない。動物は人間よりも自然の理に忠実なのである。人間は意志を働かせて、無理をする。眠くなっても眠るまいとする。

ときにはそういうことも必要であろうが、そうそういつもしてはいけない。食後はゆっくり休む。そのかわり、食前はすべてを忘れて仕事に神経を集中させる。これには午前中をすべて朝飯前にするのがよろしい。八時に起きても四時間ある。その間に、その日の仕事をすませてしまう。

わたくしはそういうことを続けて、ほぼ二十年になる。

そのうちに、もうひとつの手を考えた。朝食兼昼食をゆっくりとると、そこで、ひと眠りする。外で用事のあるときは、そうも行かないが、一日自由になる日は、寝る。その辺でゴロ寝、というのではない。ふとんをしいて、本格的に寝てしまう。

やがて目がさめる。いったい、いまは何時だろう。ずいぶん^いけ^さは寝坊してしまつて……と、一瞬、ひるさがりを朝と取り違えるようであれば、たいへん効果的である。それをもって、“自分だけの朝” とするのである。

顔を洗って、歯をみがく朝の儀式をすれば、陽がどの高さにあるかなどは問題でなくなり、ここで新しい一日が始まる。

しかし、“朝食”はとらない。夕方に、“朝食”と夕食を兼ねたご馳走を食べる。それまでの時間はすべてこれ、朝飯前の時間である。こうすれば、一日に二度、朝飯前の時間ができる。つまり、一日が二日になる。実際、こうして、午後の三時から三時半ごろから、夕方の六時、七時までの時間も、かなりよく頭が働いてくれる。

ものを考えるのに、時間を選ぶことはないと思っている人がすくなくないけれども、ものを食べたあとがよろしくないのははっきりしている。体の疲れたときも適当でない。

だとすると、寝て疲れをとったあと、腹になにも入っていない、朝のうちに最高の時間であることは容易に理解される。いかにして、朝飯前の時間を長くするか。

外山滋比古『思考の整理学』（1986年）筑摩書房，22～27頁より抜粋

下書き用紙

これは、問題2の下書き用紙です。解答は解答用紙に記入してください。

A blank grid paper with a coordinate system. The horizontal axis (x-axis) is labeled with 5, 10, 15, and 20. The vertical axis (y-axis) is labeled with 100, 200, 300, 400, and 500. The grid consists of 20 columns and 50 rows.

